命をつなぐ幸福度の高い地球社会を創る

地球蘇生プロジェクト 通信



2014
FALL / WINTER
Vol.02

地球蘇生へ向けて 共に行動を。

地球と共に生きるための８箇条

分かち合う経済へ

第2回恩送りフェスタへ向けて　白鳥 哲
少食は世界を救う　森 美智代
「お金のいらない国」を想像してみよう　長島 龍人
地球に恩返しを　柏田 ほづみ

福島蘇生プロジェクト

〈コラム〉
地球蘇生へ向けての森づくり

地球蘇生プロジェクト
命をつなぐ幸福度の高い地球社会を創る

調和 HARMONY
祈 PRAYER
命の輪 NETWORK
環境 ECOSYSTEM
〈 3わの神器 〉

◆ ライフスタイル　祈りが精神的主軸

食
- 愛と慈悲の小食
- 自給自足
- 半農半芸
- 地産池消

教育
- 魂の教育
- 足るを知る
- 利他の精神
- 右脳教育
- 慈愛教育
- 生体エネルギー学
- 波動学

医療
- 量子物理学的全体医療
- 医療大麻
- 祈り
- ヒーリング
- 音響療法

エネルギー・技術
- エネルギーアート
- 共生テクノロジー開発
- 蘇生技術
- フロンティアサイエンス
- ヘンプ

◆ 政治　地球全体を第一主義として考える

環境
- 水源保全
- リトリート（全生命の安楽地）
- リユース
- リサイクル

経済
- 分かち合う経済
- GNH（国民総幸福量）
- 「寄り合い」制
- 地域主体
- 農業中心

防衛・外交
- 南極スタイル
  （個・人種・国を超えた共同体・共同作業）
- 自衛防衛
  （愛を伝えつづけることが最大の自衛防衛）

税・社会保障
- 江戸モラルの実現
  （与えるものが受け取るもの）
- 「恩送り」
- 「相身互い」
- 「お蔭さま」

＊■がPHASE1「15年ヴィジョン」の3マニフェスト

地球蘇生プロジェクト 通信　発行元　株式会社 OFFICE TETSU SHIRATORI　地球蘇生プロジェクト事務局　〒111-0053 東京都台東区浅草橋3-29-4-2F
TEL 03-5825-7752（受付時間：月火木金10時~17時）　FAX 03-3864-3788（24時間受付）　http://OfficeTetsuShiratori.com　http://EarthianAlliance.com

命をつなぐ幸福度の高い地球社会を創る
地球蘇生プロジェクト通信
Vol. 02 2014 FALL / WINTER

Contents





02 地球蘇生へ向けて 共に行動を。 地球と共に生きるための8箇条 ……地球蘇生プロジェクト代表 白鳥 哲
03 分かち合う経済へ 分かち合う経済の実践、新文明のスタート ……白鳥 哲
05 第2回恩送りフェスタ出演者より
少食は世界を救う ……森 美智代
「お金のいらない国」を想像してみよう ……長島 龍人
地球に恩返しを ……柏田 ほづみ
07 福島蘇生プロジェクト
08 特設コラム 「地球蘇生へ向けての森づくり」
09 映画「蘇生」撮影記録
11 時芽輝ツアー
13 地球蘇生へ向けての活動報告

「地球蘇生プロジェクト」を支えてくださる顧問の方々。



筑波大学名誉教授・
心と遺伝子研究会代表

祈りの力、意識の力を
共に繋げていきます



株式会社F.E.D
代表取締役社長
木内 鶴彦
エネルギーの方向性を
共に考えていきます



森鍼灸院 院長
森 美智代
食の在り方を
共に見つめていきます

AUTHOR 白鳥 哲　DESIGN 中村 嘉宏　CHIEF EDITOR 三浦 知子

地球蘇生へ向けて 共に行動を。

皆様、こんにちは。白鳥哲です。

この半年の間に、台風、大雨、洪水、ひょう、干ばつ、高温、豪雪・・・。地球全体の気候が極端に変動し始めています。800人以上の科学者が4年間にわたって行った地球全体の調査結果が、昨年に引き続き、今年3月と4月に行われた国連の気候変動における政府間パネル（IPCC）で発表されました。それによると「現在の気候変動は人間の活動によるものである」とほぼ断定され、このことは現在の気候変動の状況の深刻さを浮き彫りにしています。

今年6月、世界人口は72億を突破しました。このままいくと2050年には90億を超える勢いになっています。食料、水、エネルギー、環境、全てが待ったなしの状況に向かっています。私達自身が一刻も早く、生き方、そして、産業構造を変える決断をし、地球蘇生へ向けて進まなければ、未来はいっそう厳しいものになっていくことでしょう。

地球と共に生きる生き方へとシフトし、地球蘇生に向けて共に行動していきましょう。そして、繋がっていきましょう。何卒よろしくお願いします。

〔地球と共に生きるための8箇条〕

1 質素倹約
2 足るを知る
3 愛と慈悲で食をする。少食にする
4 地球と共存出来るエネルギーに切り替える
5 絆を大切にして、自分自身を大事にするように、他人や全ての生き物に接する
6 宇宙全体に貢献する生き方に変える
7 日々感情、感覚を浄化して次の日に持ち越さず、解消する
（自他を乗り越えるには感情・感覚の不調和を調和へと変容させることが必須です）
8 毎日、太陽、水、空気、地球、ご先祖さまに感謝する

地球蘇生プロジェクト代表
白鳥哲

分かち合う経済へ

白鳥 哲

２０１３年3月から始まり全国各地に広まった「恩送り食事会」が徐々に成長を遂げ、２０１４年3月 21日に「第１回恩送りフェスタ」が開催されました。そして来たる２０１４年12月21日には「第２回恩送りフェスタ」が開催されます。

第１回恩送りフェスタでは、地球蘇生プロジェクト顧問の村上和雄氏、木内鶴彦氏に続き、時芽輝農場主の池添友一氏が登壇しました。この講演会は、恩送り食事会に参加された方からの恩送り金、そして２０１３年12月21日の地球蘇生プロジェクト発足１周年記念「ミロクの世の未来ビジョン」を主催した健康まなび家さまが「恩送りの精神」に感動し恩送りしてくださった資金により運営され、「分かち合う経済」の実践、新しい文明のスタートとして開催されました。登壇者の皆様のご講演内容は未来に対して示唆に富んだものばかりで、それぞれの分野から新しい未来像に対してのご提案を頂きました。

まず、時芽輝農場主の池添友一氏からは、自然に負荷をかけずに、健康で力強い「農のあり方」の実践報告を受けて、会場にいらした多くの方々が深い関心を寄せていました。



地球蘇生プロジェクト顧問木内鶴彦氏からは、エネルギーのあり方について、ご自身の臨死体験から得た叡智を元にした説得力のあるご提案を頂き、会場全体が未来に対しての希望を頂きました。

地球蘇生プロジェクト顧問村上和雄氏からは、祈りの力について、科学においてどこまで進んでいるのか。長年の研究から得た叡智をユーモアを交えながらお伝え頂き、深い感動を頂きました。

最後に私から地球の現状と地球蘇生に向けての日本人の研究者達の取り組みについての報告、そして新しい産業構造への転換として「分かち合う」世界についての発表をさせて頂きました。

その後、恩送りセレモニーを通して、来場者の皆様から次の参加者への恩送りとメッセージが捧げられ、最後に、会場に集う２００人の皆様と、インターネット上の呼びかけに応じてくださいました皆様と共に、地球へ祈りを捧げ、会場全体がひとつになり大きな感動が広がっていきました。この日の感動が次の第２回恩送りフェスタへ贈られていきます。

恩送りフェスタは、全てを恩送りでつなげていく「分かち合う経済」の実践です。ここで起きることは「分かち合う喜び」「与え合う喜び」が伝播していくことです。さらに、私達の奥にある「良心」「神性さ」「捧げあう喜び」が溢れていくことなのです。参加された方々の多くにその喜びと感動が溢れてきます。

そもそも、江戸時代にはこうした恩送りは当たり前にされていました。歌舞伎の「菅原伝授手習鑑」の中にも恩送りという表現が登場します。「情けは人のためならず」という言葉に表れているように、全ては巡っていく。そのことを日本人は精神性の中で理解していたのです。

お金もエネルギーです。「奪い合う」という価値観の中で流れているお金のエネルギーは、全てを分断し、不信を与え、自他の区別を強烈にし、争いを生みます。しかし、「分かち合う」というエネルギーで流れるお金は、「信頼」「喜び」「善良さ」「暖かさ」で満たされていきます。お金はあくまで道具です。最終的にはその道具が必要なくなり、それぞれがそれぞれの才能を捧げあうことで成り立つ世界にまで進化していくのです。

今、私達人間は、紙幣とコインのために、大地を汚し、海を汚し、森を破壊し、水を汚し続けているのです。かけがえのないものをこの紙幣（紙）とコイン（金属）のためだけに奪い続けています。自然は、太陽光も空気も水も、全ての生命を育むものを無償で与え続けてくれています。それ以上に必要なものはないのに、そのかけがえのないものと引き換えに、紙と金属の塊を手に入れようとし、争いや対立を深めているのです。

今年７月に長島龍人さんと初めてお会いし、彼の大変気さくで愛嬌のあるお人柄に感動しました。長島さんは「お金のいらない国」がどのようなものかを見事に表現されていて、彼が語る「お金のいらない国」が本質を突いていることに深く感じ入りました。来る12月21日の第２回恩送りフェスタに、長島さんが恩送りでご登壇くださいます。長島さんの語る「お金のいらない国」を通して、私達はいかに思い込み、洗脳されているかに気づくことでしょう。是非、彼の生の声で聞く世界に触れて頂きたいと思います。



（12月より公式サイトにて短編映画「恩送り」公開予定）

恩送りフェスタへ向けて 出演者よりメッセージ


「お金のいらない国」著者　長島龍人氏


地球蘇生プロジェクト顧問・鍼灸師　森美智代さん

少食は世界を救う

森　美智代

今地球上に70億人の人がいるとすると、貧しい国、環境が厳しい国の人が10億人くらい飢えて死のうとしていて、同じくらいの豊かな国の人が病気で死のうとしています。

天国とはどんなところかというと、大きなお鍋にご馳走があって、たくさんの人が長い匙を持っています。みんな、お互いにご馳走をすくって食べさせてあげて大変満足してにこにこしています。一方地獄では、同じように大きなお鍋にご馳走があって、それぞれ長い匙を持っていますが、自分が食べようとして、ご馳走がこぼれていつまでたっても食べられないのでみんな怒っています。同じような状況でも、そこにいる人たちの心によって天国にも地獄にもなるということです。

今の地球は競争社会で、争いが絶えませんが、それをやめて、愛のある選択をみんながしていけば、この世は、生きている間に天国になると思います。愛と慈悲の具体的行動、だれでもすぐできることは、少食です。それは、限りある食料を分け合って、自分と他の人の命を大切にする愛と慈悲の行為です。人は本来自分だけがいいより、みんながいい方がワクワク、ドキドキ、心が歓喜に満ちるものなのです。

「お金のいらない国」を想像してみよう

長島　龍人

最近の世の中はおかしな方向に動いている気がします。国民は不安を感じていてもどうすることもできずに歯がゆい思いをしているのではないでしょうか。私は多くの問題は突き詰めればお金が原因なのではないかと思います。

お金は経済社会では持っていないと生きるのが困難です。しかし、そもそもお金は必要なんでしょうか。お金は人間が作り出した道具であり、初めから自然界に存在するものではありません。道具は、便利で皆が幸せに暮らせるものなら意味はあるでしょう。しかし、現在のお金は人々を幸せにしているでしょうか。

お金の存在しない社会を想像してみてください。仕事をしてもお金はもらえませんが、すべてタダですから、何を手に入れるにもお金は要りません。そうなったら、あなたはどうしますか。

私はお金がなくなっても人々は必要な仕事をし、社会は成り立つのではないかと考えています。そんなことは無理だと思われる方も多いでしょう。でも、考えてみなければ始まらないし、みんなが想像できたら、案外簡単に実現するかもしれません。お金のいらない国だったら自分はどんな生活がしたいか、どんな仕事がしたいか、そんなことから想像を始めてみませんか。

地球に恩返しを

柏田ほづみ

どうやら私達人間というものは、人間が一番偉いと思う傾向がある様に私は思います。自分の欲を満たす為に自然を破壊し沢山の物を取って食べて余れば捨てる…。いつからこの様になってしまったのでしょうか。この地球は有限だと言われています。資源を大切にと言いながら、私達は相反した事をしなくては生活が出来ないと思っています。

ところで私の専門は歌手です。発声障害を持って生まれて来た私が2度の手術を経て歌わせて戴いています。近年までの私はただ自分の満足出来る歌を歌えれば良かったのですが、様々な経験の後に「地球を癒せる歌を歌いたい」と宣言出来る様になっていました。

自分の満足の出来る歌から誰かの為に歌う、自分の欲を満たす事しか考えていなかった私が、地球の役にたつ歌を歌いたいと願い歌い始めました。それに気がつくまでに早かったのか遅かったかなんて分かりません。何が正しいのかなんて分かりません。ただ分かるのは、自分のやった事は己自身に返って来るという事です。

そろそろ私達人間はこの地球上に「住まわせて戴いている」という事を意識しなければならない時期が来ているのではないでしょうか。温暖化によるハリケーンなみの大型台風、地震、原子力、公害。地球の悲鳴を聞いてあげるのは一体誰なのでしょうか。総理大臣一人の責任でしょうか？いいえ、違います。それは「私達」なのです。出来る人から意識を変容させていき、地球に感謝の気持ちを持って、住まわせて戴いている地球に恩を返していきませんか。


魂の歌手　柏田ほづみさん

地球蘇生プロジェクト

福島蘇生プロジェクト



意識変革と同時に進めなければならないのが、地球全体の蘇生です。人類がこの地球で生き残るためには急務なのです。人間は空気がなければ生きていけません。水が無ければ生きていけません。植物や動物、微生物がいなければ生きていけないのです。それら生命（少なくとも酸素を必要とする生命たち）にとって、現在の地球はエントロピー増大の方向に物凄いスピードで進んでいます。

その原因が人間による汚染です。その最たる物が放射能です。放射能汚染を解決する蘇生的行動は、その他の汚染源の解決の糸口となっていくのです。

２０１４年５月、福島県富岡町のほとんどは帰還困難区域となっていて、月一回程度の日帰り立ち入りが許されているだけです。自分の生まれ育った故郷に帰れない不安と喪失感は計り知れません。これは福島のみならず、日本全国の原発立地地区を中心とした多くで起き得ることなのです。と言いますのは、地震や津波、台風、大雨などの大規模な自然災害は避けられませんし、生命の根幹を成す水を巡る争いが今後大きくなることが予想されるからです。

今、福島を中心とする放射能の影響を受けた地域を速やかに蘇らせることは、将来、日本全体、人類全体の希望の道筋となります。来春公開予定の劇場版ドキュメンタリー映画「蘇生」の中で詳しく語られていますが、その実践が「福島蘇生プロジェクト」です。まず、現地で微生物による蘇生活動に協力してくださる方々を募ります。そこで皆様と共に、微生物による蘇生活動を開始し、地元の方々が帰還できるレベルまでサポートしていきます。映画「蘇生」の公開時に具体的なプロジェクト内容を発表し、まずは五年計画で福島の蘇生活動を実践していきたいと考えています。その様子を映像でまとめ、世界へと発信し、地球全体の蘇生を呼びかけていくというのがこの「福島蘇生プロジェクト」です。

福島の蘇生が、人類全体の希望の光となるのです。





横浜大学名誉教授 宮脇 昭先生

特設コラム 地球蘇生へ向けての森づくり

人類による森林破壊のスピードは加速していて、今や陸地の約四分の一が砂漠となっています。

メソポタミア、インダス、エジプト、ローマなど、かつて栄光を誇った文明は、森の破壊によって滅んできました。エジプトのピラミッド周辺はその昔常緑広葉樹が覆い茂る森でした。ローマ帝国もシーザーの時代はヨーロッパ全域に森が広がっていました。しかし、その森を破壊し、砂漠化したことで文明が滅びたのです。

現代文明も広大な森林を地球規模で破壊し続けています。このままいくと、人類がこの地球上で生きられない世界へと変わっていきます。森は文明の源。森を失いつつある現代において、木を植えることは未来へといのちを繋ぐ行為です。

７月23日北海道洞爺湖にて、「９００年続くいのちの森植樹祭」が横浜大学名誉教授宮脇昭氏の指導の下、開催されました。

宮脇昭先生は、「潜在自然植生」と呼ばれるその土地に本来ある植生の木々を全世界１７００ヵ所、通算約４０００万本植え続けています。

お会いする前は、植林地は植えた後の管理が大変であると誤解していたのですが、宮脇昭先生は、その土地の植生に合う種目の木々を植えることで、人間が管理し続ける森ではなく、自然に淘汰され、自ずと森になっていく森づくりを目指されてきたのです。宮脇先生の指導の元、地主や関係者がその土地の「潜在自然植生」を理解して植樹した土地は、災害に強い本来の豊かな森に変化していきます。実際に先生の指導の元に育った森が、東日本大震災の時に被害を食い止めました。

宮脇先生はそのモデルを「鎮守の森」に見出しています。日本の「鎮守の森」は、その土地本来の木々によって形成されており、人の手が加わることなく守られてきました。その土地の植生に即して、自然淘汰されてきた森は、防災、防火に優れた森となるのです。

地球の蘇生に欠かせない大切な木々の叡智が、宮脇昭先生を通じて伝わってきた洞爺湖の植樹祭でした。来年の夏に第２回植樹祭があります。是非皆でアイヌの聖地洞爺湖へ木を植えに行きましょう。

（12月より公式サイトにて短編映画「木を植えよ」公開予定）



東日本大震災では、植樹した木々が津波で流された車などをみごと食い止めました。













映画「蘇生」撮影記録

映画「蘇生」の制作もいよいよ最終段階です。今年4月までに国内外の主な撮影を一先ず終え、4月～6月の間に荒編集をし、7月から回想ドラマの撮影準備と並行してドキュメンタリー部分の撮影をしてきました。東京の外堀や名古屋の堀川の撮影では、かつてのドブ川が、有志の方々の継続した微生物資材の投入活動により、今では多くの魚たちが戻り、水鳥たちが餌を求めてやってくる川へと変貌を遂げた姿を目撃し、微生物達の蘇生力のすごさを改めて体験しました。熊野の丸山千枚田では、昔ながらの棚田の光景の圧巻たるや、撮影クルー一同「遺していきたい」という強い想いに感じ入りました。

シナリオ作成、調査、ロケハン、キャスティングを経て、いよいよ回想ドラマの撮影です。

回想ドラマでは琉球大学名誉教授比嘉照夫先生の半生を描くのですが、時代背景、人物の設定、当時の風俗など、あらゆる角度から調査し、収集し、選定がされていきます。例えば実験器具がどのようなものであったか。登場人物がどのようなトラウマを抱えているのか。白鳥監督曰く、人間のトラウマは大きく六つぐらいに分類できます。遺棄、否定、拒絶、裏切り、虐待、拒否です。その人物のトラウマがその後の人生の行動や生き方、思考、習慣に影響するのです。それらを読み取り、台本に描き、それを基に各スタッフに指示をして

ドラマを作っていくのです。

人物を描写するときに、その人物の歴史、日常生活、身につけるもの、嗜好など検証し、人間の心理から行動まであらゆることを創造していきます。そこには監督自身の人間観察の集積があり、美術、衣装、ヘアーメイク、撮影、照明、録音などと共に、ロケ場所を意図に沿った世界に変えていくのです。

回想ドラマの主役「比嘉照夫先生」を演じるのはテレビなどでもお馴染みの俳優・前田耕陽さんです。前田さんは元ジャニーズ男闘呼組のメンバーで、舞台、テレビ、映画、バラエティーなど様々な場面で活躍をされています。前田さんの抜擢について白鳥監督はこのように言っています。

「比嘉先生が若い頃は、今のように全てを穏やかに受け止められる状況ではなかったと思うのです。葛藤して努力して得た先に、今日のお人柄があるのだと思います。その葛藤する心情が伝わり、新しい比嘉照夫像が打ち出せるのは前田耕陽さんです。」

綿密な調査を重ね作成された台本を元に「読み合わせ」が行われます。ここで、役者が持ってくるイメージと監督が打ち出すイメージの融合が成されます。その後稽古を重ね、実際の撮影へと現場は移行します。こうして人間としての息遣いが立体化していくのです。

現場では、監督が書いた絵コンテを元に、撮影、照明、録音、美術、そして演技者に細かい指示が出され撮影が進んでいきます。回想ドラマの撮影現場では、ドキュメンタリー部分とはまた違った世界観の中で、撮影クルーの絶妙な連係プレーが繰り広げられ、人生物語に息が吹き込まれていくのです。

回想ドラマの撮影が終わると、いよいよ最後の本編集。音楽やCGの制作・挿入、整音、映倫審査などを経て完成へと向かいます。完成まであともう一息！来春には劇場公開を予定しています。お楽しみに！

2015年春 劇場公開予定!



時芽輝ツアー

Toki Me Ki



どんな存在にも役割がある。

6月に、第1回恩送りフェスタにご登壇いただいた池添友一さんの時芽輝農場を訪れる「白鳥哲監督と共に行く時芽輝お伊勢さんツアー」が開催されました。ご参加いただいた皆さまありがとうございました。

池添さんは、農薬も要らない、除草剤も要らない、耕さない、水もやらない・・「農」において不要だと思ったものをどんどん引き算していき、最終的には毎日足を運び、作物たちの声を聴き、手をかける、単純だけれども何よりも大切な大地との絆を育むことでより豊かな作物を実らせています。

自然に負荷をかけることなく、大地を蘇らせる「農」を営んでいるのです。

池添さんの農場は、常に新しい試みが実践され、進化し続けています。今回のツアーで大変衝撃的だったのは、カラスのお話です。カラスの作物へのいたずらが絶えないので、カラスに声をかけるようになったというのです。

「いつも畑を見張ってくれて有難う。よろしく頼むよ。」

そうやって声かけを続けていたら、カラスがいたずらをしなくなり、畑の被害がなくなったそうです。そしてお礼の気持ちを込めて余分に採れた作物を畑の一角に置くようにしたら、綺麗に全部食べてくれているとのこと。

地球は全てを与えてくれている。時芽輝農場を訪れるたび改めて感じます。10月に「時芽輝水屋神社ツアー」で再度時芽輝農場を訪れました。詳細は次号でご紹介します。

私達は現代社会の中で「足りない」「もっともっと」という洗脳を受け続けています。その洗脳から解放され、宇宙を完全に信頼し、喜び分かち合うようになったら、今私たちが直面している地球規模の問題は一挙に解決することでしょう。なぜなら、食料、エネルギー、水、私達が生きる為に必要なものは、もうすでに十分あるのです。後は分かち合い、信頼しあい、助け合う精神を思い出すことだけなのです。同じ思いを共有する人々が集い発信することで集合意識全体に大きなインパクトを与え、実現に至ります。一人の思いが二乗効果となって拡がっていくのです。共に人類の集合意識の変革を促していきましょう。



地球蘇生プロジェクト短編映画

今年の12月から公式サイトで一般公開・随時新しい短編映画を配信していきます！





地球蘇生プロジェクトでは、人類が共存できる未来像を打ち出し、映像を通して発信しています。「与える経済」「フリーエネルギー」「江戸モラル」など、地球蘇生プロジェクトで掲げる未来像を体感し、希望ある未来を確信して頂きたいと思います。その短編映画の中で、今号では、「ゼロ・エミッション」についてご紹介いたします。

短編映画

「ゼロ・エミッション」

鹿児島県志布志市に、昔ながらの瓶仕込みで焼酎を作り続けている「太久保酒造」があります。微生物達に寄り添った技法が今も生きた技として継承されています。麹菌や酵母などの微生物たちは、人の意識を反映します。奢りがあったり、無関心だと不思議とうまくいきません。どれほど想いをかけ、寄り添えるか。愛情の違いが発酵に影響するのです。微生物たちに愛情をかけることで、とても美味しい焼酎になるのです。

太久保酒造では、酒造過程で出る酒粕など、現在の産業において「産業廃棄物」、言わばゴミとして捨てられるものを資源として再利用しています。バイオ学者・飯山一郎氏が開発した「グルンバシステム」を導入して堆肥化させ、その堆肥で育った芋によって良質な「芋焼酎」を作っているのです。ゴミを資源化させる完全循環に成功しているのです。「ゼロ・エミッション（ゴミを出さない）」社会のモデルがこの映像で語られています。是非ご覧ください。





地球蘇生へ向けての活動

地球蘇生プロジェクトでは、年間通して様々な勉強会・イベント・体感ツアー等を開催しています。こうした活動を通して有益な情報をみんなで共有し、共に地球蘇生に向けて行動していきたいと思っています。是非ご参加ください。



2014

- 10/18　会員の集い@大阪
- 11/15　高野山「祈り」上映・シンポジウム～祈りと病苦～
- 11/24　富山・自然時間シンポジウム　監督講演
- 12/6　会員の集い@福岡（予定）
- 12/21　第2回恩送りフェスタ

2015

- 年初　映画「蘇生」0号完成
- 春　映画「蘇生」基金者向け試写会
- 春　映画「蘇生」劇場公開予定
- 春以降　白鳥哲監督による「祈り技法講座」開講予定

（詳細は決まり次第メルマガ等でお知らせいたします。ご興味のある方はお問い合わせください。）

6/22　株式会社ＹＫワールドビジョン様 創立10周年記念イベント
（東京・六本木）５００名以上ご参加の中、地球の現状と蘇生の道筋について白鳥監督が講演いたしました。

6/28　会員限定セミナー「言霊とＤＮＡ」
世界中の宗教のお祈りを通して見えてきたＤＮＡへの影響についてセミナーを行いました。参加者のご感想の一部です。
「私の持っていた情報が、監督の話で整理されて、理解と経験が更に深くなっていくので、本当にありがとうございます。」
「人々の闇が光になるお手伝いができるようになりたいと思いました。」

7/23　「９０００年続く命の森づくり」ｉｎ洞爺湖
横浜国立大学名誉教授・宮脇昭先生指揮のもと開催された植樹祭とシンポジウム（地球蘇生プロジェクト協賛・監督講演）

7/28　視覚・聴覚障害者向け全字幕・音声ガイド付「祈り」試写会
渋谷アップリンク（都内劇場）にて、この度完成した視覚・聴覚障害者用「祈り」の試写会を開催しました。参加者のご感想の一部です。
「全字幕と音声ガイドのついた映画を観ることで、障害者の世界を体験を通して知ることができる素晴らしい映画です。邦画にこのような取り組みをされた白鳥監督とスタッフの皆様に感謝と尊敬の意を込めて、これからも更に多くの方々に「祈り」が広まることを願ってやみません。」

8/2-3　癒しフェア　ｉｎ東京ビックサイト
白鳥哲監督が元総理夫人鳩山幸さんと「困難を恐れずにそれをチャンスと捉えて行動していくことの重要性や、福島の蘇生が人類全体にとって希望となること等」について対談しました。また、ブースに於いて開催した計５回の白鳥監督ミニセミナーも大好評でした。

8/9　北斗祈り祀りコンサート
八ヶ岳より日本列島、そして地球に向けての祈りイベント。魂に響く音色を届けるコンサートが開かれ、白鳥監督制作「循環」の上映と講演が行われました。

8/24-25　熊野・丸山千枚田　撮影
熊野の丸山千枚田にて、次回作映画「蘇生」のためのクレーンを使っての撮影。天気予報では曇り・小雨でしたが、監督とスタッフ皆でお祈りをしたところ、見事に晴れ、素晴らしい画が撮れました。

10/4-5　視覚・聴覚障害者向け全字幕・音声ガイド付「祈り」劇場上映
9/18・25（東京都・渋谷アップリンク）
9/27～10/3（大阪府・シアターセブン）
白鳥監督と共に行く「時芽輝水屋神社ツアー」

＜21日のお祈りの実践＞

地球で起きている異変を、祈りの力で、素晴らしき方向へ変容させていくべく毎月21日にお祈りを捧げています。内容はその都度ブログで公開しています。私たちの母なる地球の蘇生に向けて、共に祈り、ひとつになり、微生物の力を借りて行動していきましょう。

◎お祈りの履歴
7月21日　「ウクライナの方々の集合意識への祈り」
8月21日　「第二次世界大戦、大東亜戦争で亡くなられた方々への祈り」
9月21日　「広島県土砂災害で被害に遭われた方々への祈り」
10月21日　「御嶽山の火山噴火で被災された方々への祈り」

地球蘇生へ向けて行動する仲間（アーシアン会員）たち
10月現在１８０名
目標クリティカルマス１０，０００人

■通信のバックナンバーをご希望の方は事務局までお問い合わせください。